

## ビバハウス便り No.104 ピンチをチャンスに

2015年3月31日 ビバハウス 責任者 安達 俊子

初めにいつもビバハウスに心を寄せてくださっている皆様にお話ししなければならない事があります。安達尚男が、1月31日の区会の集会後の帰宅時にビバの玄関の前で転倒し、頭を打ち、右前頭葉の脳内出血により入院しました。初めのころは左半身麻痺の状態でしたが、現在リハビリ中で順調に回復しており、6月にはビバハウスに戻ってこられる状態になりました。

この間、ご迷惑やご心配をおかけしました。申し訳ありません。「ピンチをチャンスに」とスタッフ・メンバーが心をつにし、毎日を乗り切っています。

事実、毎日やる事がいっぱいなのに、モタモタして進まない私の様子を見て取って「ビバハウス便りは僕にやらせてください。」とスタッフの高崎雄平さんが名乗り出てくれ、今回からさっそく着手！

春の日差しと共に、心地良い風がビバハウスに吹き、若者たちの動きも活発になってきている。

現在の在籍者は1人減り、男性7名、女性1名の計8名。先月、親の経済状況も重なり、不本意ながら卒業していったS君。彼は専門学校時のいじめを機に引きこもり、ビバハウスに約1年間入所した。物静かで穏やか。時折見せる笑顔が誰にでも好感をもたれた。彼自身もやりきれない気持ちで次のステップに向かっていった。地元の東京で働くということだ。まだ、心の傷が癒えていない彼にそっと寄り添うことしかできなかったことを悔いている。

しかし、明るい話も多い。ビバハウスの最年少ボーイ、一昨年に小学校を卒業と同時にビバに来た、サッカー大好き中学2年の男子だ。1年時の休みが計30日弱で、自分に嫌なことがあると逃げてしまう癖があった彼だったが、2年時はスタッフからの叱咤激励、何より本人が意識改革をした甲斐もあり、1、2学期で計8日、3学期は無欠席という快挙を成し遂げた！

いつもそばで見守っているスタッフとしては、かなり成長し、逞しくなっていると感じてうれしい気持ちでいっぱいだ。これから高校受験が待っているが、この調子でいくと、良い方向に向かいそうなので何よりだ。

他にも、4月から北星余市高校に無事入学が決まったY君（26歳）、レンタルビデオ店にアルバイトが決まったB君（21歳）、睡眠障害でしばらく、ビバの朝礼、グループワークにほとんど参加出来なかったM君（20歳）にいたっては、今では毎日休まず、自動車学校に通い、見事一発合格で免許を取得した。この3人はそれぞれ次の目標が決まり、この3月いっぱいビバを卒業する。

他のメンバーも順調に自分の道を決め、動き出している所で、ほっと胸を撫で下ろす半面、「ここからが本番だ、もう一度気を引き締めて彼らと向き合わなければいけない。」と自分に言い聞かせている。

農作業が始まるまでの間のグループワークは、例年通り体育館での体力づくり。主にバドミントンや卓球などを楽しみながら、日ごろ鈍った体を鍛えていく。ダブルスなども行うので声を掛け合い、チームワーク力を鍛えている。その他、図書館での読書、近藤教室（余市の歴史・文化を学ぶ講座）がある。

さらに今年は、スタッフ2人ともPCが得意なのでパソコン教室を企画した。ある程度PCに慣れるのを目的に、文書作成、表作成の基礎を身につけてもらうことにした。アルバイトや学校に出かけている以外のメンバーの全員が参加した。2か月半のパソコン教室を終えた彼らは自信とやる気が出てきている。

今ビバでは、一人が目標を決めると、また一人、またひとりと連鎖していつている。これがよく俊子・尚男先生が言っている「ビバの若者集団の教育力」なるものだと実感させられた。